

「安心・活力・発展プラン2005」 第1回総合調整部会 委員発言要旨

日時：平成26年8月6日(水) 15:00～17:00

場所：オアシスタワーホテル「孔雀の間」

| No. | 項目 | 発言要旨 |
|-----|---------|---|
| 1 | 子育て支援 | 人口減少の点で、まずは女性が仕事と育児を両立できることが大切。 |
| 2 | | 地域での孤立が進んでいるので、子育てに限らず家庭にまで入って支援できるような支援のあり方が必要。子育て支援では、子どもの数を支えるだけでなく質を支える施策が重要。 |
| 3 | | 来年からの子育て3法は、各地方自治体が法案を作ることになる。地域で子育てに関する意見として、もっと世界に羽ばたけるような子どもを育てるようにしようという感覚がないので、この法案の組み方、考え方には県の指導が必要。 |
| 4 | 子育て支援教育 | 赤ちゃんを抱っこすらしたことがない方々が母親、父親になっているので、全ての中学校で思春期の赤ちゃんふれあい体験と性教育を実施してほしい。魅力というのは、温泉のような観光資源だけでなく、素晴らしい人、素晴らしい教育が受けられるなどもある。 |
| 5 | 障がい者支援 | 小学校以上では、障がいのある子どもに対して対応できる体制が整っているが、保育園では障がい者向けの体制は整っていない。 |
| 6 | 女性の活躍 | 子育ての職場環境の改善については行政だけでは難しい面もあるので、そこは企業に頑張ってもらわなければならない。近道は家庭責任を背負った女性が役員や管理職にたくさんなることではないか。 |
| 7 | | 女性の仕事と生活をいかに両立させるかということは、しっかりと取り組むべき課題。 |
| 8 | | 様々な事情により、やむなく途中で退職した女性等がもう1度働ける場を作る制度をしっかりと作ることは、知識や経験を活かすことができ、企業にも有益。そのような仕組み作りは、企業側にも経営者の決断次第で取り組むことができる余地はあるのではないか。 |
| 9 | | 女性の登用、活用のための様々な施策、思いが県内企業、特に経営者の頭にあるのかということ踏まえて企業側にも訴えていけばもっと女性の活用の場が広がるのではないか。 |
| 10 | 農林水産業 | 大分県食材の売り込みを知事トップセールスにより大阪等で行っているが、アンテナショップを通じて売り込むことで販路拡大に繋がる。 |
| 11 | 商工業 | 大分県は、大企業0.1%、中小企業12.8%、小規模企業87.1%であり、地場産業が99.9%を占める。地元の企業が頑張らなければ県経済に活力は生まれない。 |
| 12 | | 人口減少の中で、今後、中小、零細企業などは後継者不足による事業承継が困難になる。特に伝統産業などは小さな企業が担っていることが多いため、新産業の創出も大事であるが、一方で後継者不足に悩む企業の救済もセットで対応できる施策も必要ではないか。 |

| | | |
|----|-----------------------|--|
| 13 | 雇用・就労 | 県内高卒者の3年以内の離職率が35.8%である。この離職した35%の方々は新たな仕事を求めて県外へ出て行くことにもなりかねないので、就職の際のセッティングとその後のフォローをもう少し工夫して、働く環境づくりを支援していく体制が大事。 |
| 14 | 人材育成 | 理系人材が育たなければものづくり産業は厳しい。人材育成のためには、産学官の連携が必要。1企業の取組では難しいため、行政が学校と企業のマッチングを行うなど、企業の出番を作れば役に立てることもあるのではないかな。 |
| 15 | 農林水産業 商工業 ツーリズム | 東九州自動車道の開通により、商圈の崩壊、大競争時代を迎える。経済効果が3兆9千億円と言われているので、これを享受するためには、良い物は外に出し、良い情報は発信し続けることが経済の原理からも活力源になる。 |
| 16 | ツーリズム | 外国の方が観光で温泉に来られた際、とても喜んで頂けるが、もう一度来たくなるようになるようなPRが足りないと言われている。外国の方がリピーターになって頂けるようなPR、キャッチフレーズが必要。 |
| 17 | 地域づくり | 人口減少は経済界でも重要な問題。人口減少問題を解決するには、地域振興と両面の施策が必要。各地の強みや宝を活かすことが地域振興策において重要。 |
| 18 | | アーティストが地域で展示場、お店、工房を結ぶようなスモールビジネス的なところから地域の商業を興していくことが人口減少対策にも繋がるのではないかな。 |
| 19 | 移住・定住促進 | 定年を迎えた団塊の世代の「ふるさと回帰」ができないか。そのためにはふるさとに将来の希望が持てるかどうかである。 |
| 20 | | 女性が大分に行きたいと思えるような場所にするためには、女性が活躍できるような風土を作ることも大事。アートも強みになる。若年女性、団塊女性に絞って大分の魅力を開拓していくことも人口減少対策の1つとして重要ではないかな。 |
| 21 | 海外戦略 | 中国や東南アジア等に売り込むことも大事。マレーシアやインドネシアには富裕層が多く、そういった方は「安心・安全」な食材を求めるためすぐに売れると思う。 |
| 22 | 教育 | 大分県はアジアの教育の中心地になれる可能性を秘めている。大分県で保育士や幼稚園教諭の資格を取り、アジア・世界で活躍できるようになればよい。 |
| 23 | | 子ども達に日本、大分の伝統文化のすばらしさをもっと継続的に伝えていくことにより、大分の芸術文化環境が素晴らしいということを感じてくれることが重要。 |
| 24 | | APUにアジア地域全般を見据えた教職員を養成するための講座を開設してほしい。様々な人材が集まるAPUから英語教員や幼稚園教諭が生まれ、その方々が大分で働き、家族を作れば大分県の人口も増えるのではないかな。 |

| | | |
|----|------|--|
| 25 | 芸術文化 | 芸術文化について、大人がいきなり芸術文化に触れたことにより芸術への素養が生まれるわけではないので、幼児期から芸術に親しみを持つことが必要。そのためには、芸術文化短期大学で、保育士や幼稚園教諭向けの音楽や美術の講座を開設することも必要ではないか。 |
| 26 | | 芸術祭なども有名なアーティストを招いて開催するのではなく、まず移住・定住しているアーティストたちで開催し、それに共感した県外、海外のアーティストが自ら足を運んでもらうような戦略も大事。 |
| 27 | | 県立美術館は完成当初は多くの来館者があると思うが、5年後、10年後まで続くためには、県内に住む我々がどう関わり、どう支えていくかということが重要。 |
| 28 | 交通 | 大分は九州の東の玄関口である。九州横断道路も磨けばもっと光る。また、四国、関西を繋ぐ航路があるので、これをもう一度ブラッシュアップする必要がある。ここは我々の強みであり、宝。 |